湖

三年

画数 12

筆順 氵 汁 沽 湖 湖

オン コ

クン みずうみ

成り立ち

肉の形をあらわした〝月〟と〝古〟とを組み合わせて、〝大きい〟といういみをあらわした〝胡〟に、〝氵〟をくわえて作った字で、「池の大きなもの〝みずうみ〟」をあらわしたものです。

〝胡〟は、「古い肉」といういみをあらわした字で、肉が古くなると、ふくらんでやわらかくなりますので、〝ふくらむ〟とか〝大きい〟といういみにつかわれるようになりました。

使い方

▽「白鳥の湖」というバレエを見たことがありますか。ロシアの作曲家、チャイコフスキーが作曲した「白鳥の湖」は大へん美しい曲です。

▽日本で一番大きい湖は、琵琶湖です。また、一番深い湖は、田沢湖です。

熟語例

▽湖水（湖の水。また、単に湖のことをもいいます。「静かなる湖水のほとり」という歌がありますが、これも、湖の水というより、単に湖の意味で、つかわれています。）

▽湖面（湖の面。湖の表面。「小石を投げ込んだら、湖面に、さざなみが立った」などというふうに、つかいます。）

▽湖畔（湖のほとり。「静かな湖畔の森のかげから」ではじまる歌を知っていますか？　よく、みんなで輪唱しますね。）

▽湖沼（湖と沼。陸地にある広い水たまりです。大きいものを「湖」、小さいものを「沼」といいます。）

向

三年

画数 6

筆順 ノ 冂 冂 向 向 向

オン コウ

クン む＝く＝ける＝かう＝こう

成り立ち

家のまどの形をあらわした字です。家の中の風とおしがよくなるように、まどはたいていの〝向かいあい〟にもうけられています。それで、家のまどの形をしめすことにより〝向かいあう〟といういみをあらわしました。

「向かってすすむ」といういみにもつかわれます。例向上、向学（心）。

また、〝向き〟といういみにもつかわれます。例方向、転向、傾向。

使い方

▽ぼくは、母の日のプレゼントを忘れたので、おかあさんに顔向けができません。

▽その家は、海に向かって、丘の上に建っていました。

▽山の向こうに、とても美しいけしきが広がっていました。

熟語例

▽向上（上に向かってすすむこと。よりよくなること。「文化が向上したおかげで、現代の人々は快適な生活を楽しむことができます」などというふうに、つかいます。）

▽向学心（学問に向かう心。学問にはげむ心。「彼は向学心に富んだ若者だ」などというふうに、つかいます。）

▽方向（向き。「太陽がのぼる方向に歩いて行った」などというふうに、つかいます。）

▽転向（向きを変えること。立場や方向を変えること。「彼は初め画家として世に出ましたが、晩年彫刻家に転向し、それで成功しました」などというふうに、つかいます。）